

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【さいたま市立岸中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	・学校全体としては、「知識・技能」の定着を図ることができている。しかしながら、一定数の生徒は、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がみられる。次年度も「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行い、個別最適な学習を充実させ、知識・技能の確実な定着を図ることができるようにする。
思考・判断・表現	・調査結果からは、「思考・判断・表現」についても、一定の成果が伺える。本校の生徒は、課題について、自ら考え、自分なりに表現する力はある程度身に付いていると思われる。次年度は市内で先行して導入予定の「オクリンクプラス」やICT等の思考ツールを授業で活用するための校内研修の時間を設け、子どもたちの探究のため、他者との対話や協働、自分の考えをより明確にしたり、広げたり、深めたりすることができる授業改善を目指す。
主体的に学習に取り組む態度	・次年度も全ての教科の授業において、生徒の関心を引き出す課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、自己の振り返りができる時間を設定することにより、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上を目指す。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	・R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、R5年度調査の国語・数学の「知識・技能」において1pt向上させる。 ・R4英検3級相当の生徒の割合(中3)を、R5年度は0.5%向上させる。	⇒ ・「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。 ・英語を活用する機会を意図的に設定する。
思考・判断・表現	・R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、R5年度国語の「思考・判断・表現」において2pt、数学の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。	⇒ ・生徒がレポート等に取り組む際、教師側の評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスに対するコメントを付記して、評価する。
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ ・全ての教科の授業において、生徒の関心を引き出す課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、自己の振り返りができる時間を設定する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	・R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語は中2+8.5→+9.5で1pt上昇、中1+6.2→+5.8で0.4pt下降した。数学は中2+8.5→+9.9で1.4pt上昇、中1は+9.4をキープし変わらずだった。 ・中3の英検3級相当の割合は、88%→89%で+1%増加し、達成することができた。	A
思考・判断・表現	・R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語は中2で0.2pt上昇、中1で0.2pt下降した。数学は中2で1.5pt上昇、中1で0.4pt上昇した。	B
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は86.1%であった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	・R4年度の自校の結果より、国語+6.5、数学-0.1であった。知識・技能に係る問題の正答率は、国語80%以上、数学70%以上あり、全国と比較しても高い水準であることがわかった。
思考・判断・表現	・R4年度の自校の結果より、国語+9.3、数学+9.2であった。国語においても数学においても、根拠を明確にして考え、説明することができることを問う問題の正答率が顕著に高く見られた。
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度全国学力学習状況調査「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は87.8%であった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	・国語、数学、理科については「知識・技能」が市全体と比較して極めて高い水準にある。 ・社会については「思考・判断・表現」が高い水準にある一方で、「知識・技能」は市との差異が少なかった。
中2	・数学が「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに市全体として比較して非常に高い水準にある。
中3	・国語が「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに市全体として比較して非常に高い水準にある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	・R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、R5年度調査の国語で2pt、数学で1pt向上させる。 ・すべての教科授業において、生徒の個別最適な学びの実現を図り、知識・技能を習得させる。	⇒ ・国語では、2週に1度漢字テストを行い、繰り返し学ぶ機会を設定する。 ・数学では、定期テスト前に補習授業を実施する。 ・ALTと生徒の2者で行う対話場を増やす。
思考・判断・表現	・R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、R5年度国語の「思考・判断・表現」において2pt、数学の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。	⇒ ・「じ・し・ゃ・く」の視点のうち、「し:思考する」に焦点を当てた授業を継続して実施する。 ・学力向上カウンセリングを活用し、生徒の思考を深める授業づくりについて研修する。
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を、全学年90%以上にする。	⇒ ・校内授業スキルアップ強化月間を設定し、「課題の明確化」「笑顔でほめる」指導に焦点を当てた授業を公開する(6月、10月、2月)。